

成績評価基準等について

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

成績の評価は、A・B・C・D・Eの5段階で行い、A・B・C・Dを合格、Eを不合格とする。

評価は、日常の学習態度、マナー度、理解度、技術度等を総合して行う。

- ①学習態度は、生活態度を含む日常の学習に対して、いかに真面目に、意欲的に取り組んだかの度合いで評価される。
- ②マナー度は、人間関係、礼儀作法をはじめ専門的職業人として、誰にも好感を持たれる人柄となるため、どの程度実行したかの度合いで評価される。
- ③理解度は、日常の学習状況のほか、筆記試験、レポート、口頭試問等によって評価される。
- ④技術度は、主に日常の学習状況によるが、補助的に実技試験、筆記試験、レポート、口頭試問等によって総合評価される。
- ⑤通年授業の評価は前期、後期の平均値を最終成績とする。

※上記に加え、授業への出欠確認を必ず行い、欠席が多い学生には、レポート課題、補講を課し、一定の減点の上で成績評価をしている。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

上記項目について総合的に評価し、100点を満点として、A:90点以上、B:80点以上、C:70点以上、D:60点以上、E(不合格):59点以下、としている。

各授業の点数の付け方については、シラバス及び各授業にて学生に公表している。

成績は、学内の成績管理システムに入力し、管理している。

これらの成績分布を GPA による客観的指標として、下記のとおり算出し公表している。

①全科目の評価を「A」評価4点、「B」評価3点、「C」評価2点、「D」評価1点、「E」評価 0 点として GP に換算。

②GPA を算出する基準は、次のとおりとする。

$$GPA = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の時間数}) \text{の総和} / (\text{授業科目の時間数の総和})$$

卒業認定の要件

- ・年間 800 時数以上、授業を受講していること。
- ・2 年間の合計で 1700 時間以上、授業を受講していること
- ・全ての授業の成績が合格(D 以上)であること

本校指定の出欠管理システムにより日々の授業の出欠管理を行い、卒業のための時数を満たしているか否かの確認を実施している。

成績管理システムで成績管理を行い、全ての授業の成績が合格であるか否かの確認を実施している。

理事長ならびに教務部、各科目の担当教員による卒業認定会議を年度末に開催し、適切に実施していることを確認する。